

平成25年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	日本語語彙認知診断テストの開発
------	-----------------

研究代表者

島田めぐみ	所属 留学生センター	職名 教授
-------	---------------	----------

研究分担者

氏名 谷部弘子	所属 留学生センター	職名 教授
孫媛	国立情報学研究所	准教授

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本研究では、日本語語彙認知診断テストを開発した。認知診断テストでは、測定対象となっている領域の理解に必要な認知的スキル (attribute) を設定し、認知診断モデルにより受験者の各アトリビュートの習得確率を推定する。それにより、学習者は自分自身の学習過程を詳細に知ることができ、今後の学習の指針を得ることができる。

日本語教育の分野において、これまで認知診断テストは開発されていない。そこで、日本語学習者を対象とした日本語語彙テストの研究開発を行い、学習者の学習上の問題点を特定して学習者自身にフィードバックするテストをWeb空間上で実現することを目的に本研究を行うこととした。開発の第一段階として、中国語話者を対象とすることとした。前年度までに予備調査を終了し、日本語語彙の習得に必要な attribute の検討、認知診断モデルの検討、テスト問題の改訂を行った。

25年度は、attribute と問題項目を再検討しテスト問題を完成させ、Web システムへ実装した上で本調査を12月に台湾にて行った。調査では、テストと事後アンケートを実施した。認知診断テストを利用することにより、受験者は attribute ごとの習得状況を知り、今後の学習方針をたてることが可能となった。また、Web システムを利用したことにより、受験者は受験後直ちに各自の attribute ごとの習得状況を知ることができ、学習上の問題点を把握することができることが確認できた。しかしながら、音声問題を導入したことにより、データ量が膨大になり、実験実施大学のサーバーで対応できず、受験人数に限られるという問題が生じた。今後は、音声問題の扱いについて検討する必要がある。また、テストの結果とテスト後のインタビュー調査の結果を、前年度に中国で行った予備テストの結果と比較し、中国の学習者と台湾の学習者の習得上の差異について、現在分析中である。

認知診断テストの開発は日本語教育分野において初の試みであり、検討課題もあるが、研究成果は、語彙以外の分野の日本語テストや他言語のテストに応用することが可能である。今後は、今回開発した日本語語彙認知診断テストを参考に、より汎用性の高い初級文法の認知診断テストを開発する予定である。

研究成果発表方法

[発表論文名 (口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名 (投稿中・投稿予定・執筆中) を記入する。]
※本経費を用いて、報告書 (冊子等) を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
 なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

「日本語語彙認知診断テスト—台湾での調査から—」(仮題) 『東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2014 年度国際学術大会』にて口頭発表を行う予定である。